

かながわ異グ連ニュース

かながわ異グ連が新たな試み「広域・同時・複合交流」に挑戦します！！

新たな広域・地域間交流の試みについて

事務局長 芝 忠

来る5月23日に開催予定の「広域・地域間交流シンポジウム」は新しい試みを追及する場になります。

中国を先頭にしたアジア各国の経済的急成長のなか、日本における中小企業の経営戦略が厳しい状況に置かれています。しかし、その中でも自らは特化しつつ、様々なネットワークを利用した経営戦略・技術戦略・販売戦略・情報戦略・人材戦略の重要性が改めて注目されています。異業種交流においても近年、広域・地域間交流の必要性が指摘されており、今回神奈川県異業種交流団体が継続的に交流を行なっている地域（山形県米沢市、宮崎県都城市、愛媛県、山口県等）からパネラーを招聘し、各地域での特徴的な経営戦略と広域・地域間交流の現状分析及び今後の発展方向について意見交換を行なう事としました。

現在、我が国には異業種交流グループが約3000活動しています。これらのグループや地域の中には広域交流の中からビジネスチャンスを生み出す動きがあり「広域異業種交流ネットワークフォーラム」の交流大会が川崎、岩手大学、新潟、東京都北区で開催され、今年は愛媛県今治市での開催が予定されています。

こうした動きと、前述した特定地域と神奈川県との交流活動を重ね合わせて、新たに「広域・同時・複合交流（仮称）」を行なう事により、大きなビジネスチャンスを作る可能性に挑戦しようとする試みです。すでに岩手大学からの参加申し入れや、熊本県、大分県等からの依頼もあるので、思い切ってさらに大きく広げる事を検討したいと考えています。各方面から多数のご参加をお待ちしています。

<開催要旨> 広域・地域間交流シンポジウム：H15年5月23日（金）13:30～16:40

- ①主催者挨拶 神奈川県異業種グループ連絡会議議長 南出健一他
- ②問題提起：「地域間交流の現状・成果・課題」異グ連事務局長 芝忠
- ③招聘各地域からの状況報告と討議 その他

会場：横浜市開港記念会館講堂（横浜市中区本町1-6、Tel 045-201-0708）

資料代：1000円（横浜、都城からお土産がです）

懇親会：同日 17:15～19:00（懇親会は別途3000円頂きます）

会場：神奈川県庁新庁舎12F食堂（シンポジウム会場から徒歩5分）

<連絡事務局> 神奈川県異業種グループ連絡会議 芝・志村・渡部・根岸 tel045-633-5192 fax045-633-5194

新たなビジネスチャンスを作ります！！

「日本の宇宙ロケットの現状と新たな技術課題」一講演会と相談会の案内

ビジネスコーディネータ 愛恭輔

日本の製造業は海外の低価格製品におされ国内の不況も加わり厳しい状況となっています。この対策として製品の高付加価値化、低コスト化、特徴ある自主製品の開発などの取り組みが積極的に行われています。

先端技術を集積する航空・宇宙産業においても、日本が得意とする精密な部品を作る技術を基に高品質な半導体やLSI回路、電気機械部品などの電子部品や弁や軸受などの宇宙部品を作ってきました。しかし、生産量が低く採算面で厳しく、また、技術者の確保や製造設備の維持が難しい、などの多くの理由で製造が危ぶまれ調達が厳しい状況となっています。しかし、国策上からも多くの部品の国産化が求められています。そこで、異業種交流センターでは潜在的に優れた技術を持っている企業を掘り起こすとともに広域企業との連携を図って新しい技術課題に対する「航空・宇宙開発関連部品調達支援プロジェクト」を発足させることになりました。将来はネットワークを活用した生産体制を作り共同出資会社、組合、あるいはNPOなどの組織化を考えています。

このプロジェクトを立ち上げるために、標題の講演とプロジェクト参加を希望する企業への説明会及び相談会を宇宙開発事業団の担当者を招聘し開催することになりました。多くの方々の参加をお願いいたします。

日時：2003年4月24日（木）14:00～17:00 参加費：無料

場所：（財）神奈川中小企業センター13階 第2会議室

内容①産学官連携における宇宙開発利用の拡大 宇宙開発事業団産学連携推進室 調査役 庄司義和氏

②宇宙用部品の現状と民生技術への期待 同 宇宙部品開発センター 主任研究委員 松田純夫氏

③プロジェクト参加希望企業との相談会

申込先：神奈川県異業種グループ連絡会議 芝・愛・荒 tel045-633-5192 fax045-633-5194

都市再生プロジェクト“関内地域の機能的再開発へ”さらに現状分析を進める！！

第4回「関内地域」都市再生プロジェクトは、3月25日（火）中小企業センター5F会議室において開催され、15名の出席者により討議・情報交換が行なわれました。

関内地域の既存ビルの機能的再開発のためには、衰退的に変化しつつある関内地域をどのように考えれば良いのか、現実を再認識しながら進めようと言う事で、次回から順次、横浜市の担当官、ビル協会、マスメディア等のレクチャーも並行して聴講する事とした。また同時にオンリーワンの機能アイデアを既存ビルに集積付加出来るように分科会において検討する事となった。

次回は4月23日（火） a m10:00~12:00です。関心のある方は是非ご参加ください。（織方 記）

中小商店街活性化プロジェクト① 山本美枝子氏（ブティック(有)AKANOREN社長）を囲んで（4月3日）！！

去る2月22日洪福寺松原商店街の見学を行い、その活力ある商店街運営に感心した人も多かったが、さらにこのたび青年部でご活躍されている山本社長にお越しいただきお話を伺う機会を得た。

<要旨>

数年に1回理事役が回ってくる。まず「青年部」を作り、仕掛けを始めた。“お汁粉を売って寄付しましょう”が成功した。低い予算で集客力をつけた。大学生7人や他の商店街から応援者が手伝ってくれた。その後、「空缶回収機」も設置しました。環境にやさしいまちづくり をやっぴいこうというのがテーマです。「エコバッグ」「エコカード」もデザインを募集したところ、116件の応募があった。われわれは、今後の50年を考えたイベントにしたい、また、外の団体をブレンに持つことを活用していきたい。等々（相楽 記）

.....

中小商店街活性化プロジェクト② 西湘まるごと研究会(湯河原)訪問（4月7日）

西湘まるごと研究会は、湯河原市宮上の和菓子処「味楽庵」店主 室伏昇氏が中心になり地元湯河原のみならず、真鶴や根府川なども一緒になって「まちおこし」に取り組んでいるグループです。研究会が3部会あり

- ①環境部会—毎月、町内でまるごと清掃隊の活動を実施する。また、「日本一ポイ捨てゴミのない町づくり」の活動をしている。
- ②産業部会—西湘浜通の活性化を図るため「豆相人車軌道」*を軸に周辺地域の観光資源を発掘しPRしている。
*明治29年より、「人車」といって「熱海～小田原」間を走った。人が入って引いたり、押ししたりして進めた「トロッコ」を復元再生させたもの。
- ③教育教養部会—会員が専門の仕事を活かして体験企画をたてる。菓子作り体験、蕎麦打ち体験、干物作り体験、藁草履作り体験などを実施している。

当日、味楽庵で14名が和菓子づくりを体験したが、お茶と一緒に食べる味は格別でした。（相楽 記）

.....

中小商店街活性化プロジェクト③ 川崎市の元住吉商店街を見学した（4月14日）！

去る4月14日元住吉商店街を見学し、伊藤副理事長にお話を伺った。元住吉商店街はS22年住吉商店街として20店舗で発足して以来紆余曲折があったが、「中世ヨーロッパ風ロマンと語らいの街」を基本テーマとし商店街近代化に取り組み、S60年中小企業庁「コミュニティ・マート策定事業モデル」の指定を受け、H元年「ブレーメン通り」オープニング、H2年「モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合」と名称を変更した。翌H3年にはドイツブレーメン市ロイドパサージュ商店街と友好提携を行なっている。

ブレーメン音楽祭を隔年開催、オリジナル商品のブレーメンワイン、環境街づくりとしてペットボトルや缶の回収機設置等々を行なっているが、イベントは打ち上げ花火であり、普段の売上増には結びつかない。活性化には毎日の改善工夫の積み重ねが重要である。現在183会員を擁するが、非会員も相当数存在し総力結集の観点から大きな課題の一つである。等々

役員の皆様が自店経営もありながら、手弁当で楽しそうにがんばっておられる姿が印象的であった。（小野川記）

韓国商品展示・商談会開催のご案内	日韓革新協議会開催のご案内
日時：H15年4月22日～23日、10:00～17:00 場所：日本貿易振興会ビジネスサポートセンター 東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー2F 主催：京畿道、韓国貿易協会 入場無料 後援：日本貿易振興会（JETRO） 参加：一般製造業37社、農水産品業者7社 問合せは、03-5777-2401 韓国貿易協会東京支部	日時：H15年4月30日、15:00～18:00 場所：神奈川中小企業センター6F特別会議室 内容：H14年度報告、H15年度計画審議 韓国側の今年度計画、(財)日韓産業技術財団の紹介 等々 問合せは、(左記も含)ビジネスコーディネータ高橋道徳 045-311-0094まで

公的補助金獲得支援プロジェクトが始動

第2回公的補助金獲得支援プロジェクト会議が、3月26日（水）中小企業センター6F大研修室で開催されました。始めに、参加メンバーの確認を行った結果、技術士、中小企業診断士、経営士、行政書士など多彩な顔ぶれが揃い、33名でスタートすることが決まりました。

次に、芝異グ連事務局長より今後の事業計画作成に当たっての基本方針の説明がありました。このプロジェクトの狙いは、単なる補助金申請書作成の支援にとどまらず、申請者が書いた原案に対して相談員（仮称）が企業の持つ経営戦略や技術等について、申請者と討議を行いながら申請書を修正し完成させます。このように相談者が申請者の力を引き出していくことによって、経営戦略の再構築や人材の育成にも結びつく効果が期待されます。

更に、関係団体等へのPR、アドバイス能力向上のための研究会発足、他のコンサルタント団体との連携などについて意見交換が行われた後、参加者全員が次の6分科会に別れて活動する考えが提案され、各自の希望を聞きました。（1、運営事務局 2、受付事務局 3、補助金一覧表のCDづくり 4、講師派遣事業 5、カタライザー制度の活用 6、補助金情報担当事務局）

今回は、事前に運営事務局メンバーによる会議を開催し、具体的な「活動計画」案を作成した上で全体会議を開催することになりました。（松井 記）

第3回異業種交流活性化研究会で「異業種の歴史」を学んだ！！

4月14日（月）、14名の出席の下で「異業種交流活動の効果と課題に関する調査研究」（財）産業研究所編（委託先（財）中小企業異業種交流財団）H15年3月発行、の中の図表2-2「異業種交流促進政策の推移」を基に、芝事務局長から異業種交流の発祥から現在にいたる主な出来事の説明を受け、質疑と今後の取り組みに関する意見交換を行なった。

<要旨>異業種交流の発祥はS45年の（財）大阪科学技術センターでの技術相談、産学交流、技術力調査の3つの試みであろう。以後は埼玉、神奈川、静岡、東京と続き全国に広まった。H11年の「経営革新支援法」「中小企業基本法改正」は、国が「異業種交流型（任意団体型、ネットワーク型）」という柔軟な組織への期待であり、今日の「コンソーシアム事業」「技術連携アドバイザー事業」に発展した。等々

今回は5月19日（月）10:00～12:00 中小企業センター5F会議室、（島津龍BCの事務局論です）（小野川記）

異業種交流専門家育成講座

異業種交流スキルアップ及びプロの育成の一環として、第一線でご活躍のコーディネーター及び経験豊富なベテランの方に毎回登場願ひ、実績・経験に基づいた持論を展開いただきます。



異業種交流を支えるコーディネーション

根岸良吉

異業種交流活動を機能させるツールとしてコーディネーション(coordination)、コンサルテーション(consultation)、アドバイス(advice)がある。英和辞典によれば次のような訳が付けられている。

- ・コーディネーション(coordination):調整、同格化、調和、同等の意。
- ・コンサルテーション(consultation):相談、聴聞、調査、参考、参照の意。
- ・アドバイス(advice) :忠告、助言、考慮の意。

現在、(財)神奈川中小企業センター企業化支援部交流支援課に配置されているビジネスコーディネーターが対応している課題は県内外の中小企業、あるいは個人から持ち込まれ多岐にわたっている。

(グループ化、創業、事業存続、製品開発、知的所有権、新商品開発、事業経営、新分野進出、販路開拓、商取引、人材確保、社員教育、雇用問題、労務問題、技術研修、産学連携、トラブル対策、環境対策、資金問題、海外進出、海外取引、情報収集、情報処理、IT化、流通、サービス、高齢化問題、求職・就職等々)

これらの課題は個別のものとしてその時点で個々に解決できるものと、時間的・空間的・社会的な三次元問題との関係で処理しなければならないものがある。これまでの経験では後者の場合が圧倒的に多い。まず、中小企業基本法を始めとし、中小企業経営革新支援法並びに関連法令にも明らかなように中小企業の経営資源の拡充が必要な現在の状況がある。資本形態、経営規模、経営形態、従業員構成、経営・事業理念等、現代産業社会の動きの中で苦しみ、悩んでいる中小企業の増加は事実として巷間に膾炙されている。そのため、国、地方自治体等は行政規模の大小を問わず、産業再生の要として企業間連携、企業間交流を産業再生のツールとして支援している。

この産業再生のツールを活用して、単一の課題に対しても政治・経済・社会・科学技術・生活の状況判断と、関係するであろう各分野との関連を考慮し、企業にとっての最適条件を創出することがコーディネーションのあるべき姿であろう。このようなコーディネーションを担当するためには専門性は当然のこととして、あらゆる分野の知識・経験を動

員・活用する術を持っていること、すなわちスペシャルティ(Specialty)とジェネラリティ(Generality)の両者をバランス良く保有し、総合的な判断の下で活用することが重要である。しかし現実の問題として、このような万能的な人(generalized person)は存在しない。そこで複数の人の協力関係、あるいは一体化による対応に現実味があると考えられる。

コンサルタントやアドバイザーは投げ掛けられた課題のみに対応することで業務とすることは可能であるが、最近ではコーディネーション機能も持っていないと利用されなくなっている。(財)中小企業異業種交流財団のカタライザーもコーディネーション機能が要求される職務であるため、専門とともに知識・経験を活用する術を持っている人を多数集めている。このことについての最良の事例としてドイツの技術移転を主業務とするシュタインバイス財団のコーディネーション機能がある。この財団の抱えているコーディネータはおよそ2,000人といわれ、各分野各層の人材を確保し、課題の内容によって適切な複数のコーディネータで構成されるグループに対応させている。ただし、課題の進捗度や的確性を欠く場合は随時リーダーが人材の入れ替えを含むやり方で陣容の改善を実行するシステムとなっている。

一般論として知識・経験を活用しようとする人は持っている知識が偏らず、各種の経験を重ねており、その両者を融合させて自由自在に柔軟性を発揮して課題対応できることが求められる。さらに付加的要素として相手に信頼感を与える責任感の強さも必要である。さらに私利私欲の無い人はいないが、相対的に少ない人が好まれるし、気配り、目配り、手配りの3拍子の揃っていることが大きな要素である。一方、表立たずにフィクサーとして自分の立場を堅持することも必要かも知れない。蛇足になるかも知れないが、托鉢の僧のように報酬はコーディネータ活動に対する喜捨として有り難く受け取る心掛けが望まれる。もっとも日本社会は価値があっても無形のものに対しては代償を支払わないという文化を持っている。そのため、悪質な依頼者を相手にした時、コーディネータが食べ物にされる危険性が常に存在する、という覚悟だけは必要であろう。

人はそれぞれ生まれも育ちも違い、当然のことながら価値観も人生観も、ものの見方、考え方も違う。類似はあっても同じものは無いとするのが妥当であろう。違っているのが当たり前な浮き世なのである。しかし、現実のこの社会は類似を同質・同根と誤認識し、価値観や人生観の違うものを異質・異根として排斥する傾向が強い。このようなことは最近になって修正される方向にあるが、現代日本の基礎教育での均質化教育指導の成果であると皮肉の一つも言いたくなる。要は個性が妨げられたと同時に出る杭は打たれることによる平準化の結果でもあろう。このような環境を異業種交流の中に持ち込まれるとグループは仲良しクラブに変質してしまう。仲良しクラブはそれとしての存在理由はあるがその運営はコーディネータの役割では無い。

異業種交流の目的が明確であれば、運営の方法はそれぞれが得意とする方法を活用して効率的に推進できるが、そのような時、通常はグループ内に格差を生ずる。この格差を活かすのか修整するのか、調整するのもコーディネータの役割であろう。知識・経験に裏打ちされたコーディネーションを効果あるものとするのはコーディネータの持つ人脈の大きさであろう。また状況を改変、あるいは打破するのは柔軟な思考と融通無碍の行動力であろう。時代の変化は時を待たない。優れた観察力、洞察力、判断力を基盤とした決断力を保持することがベターであろう。この世の中ベターはあってもベストは存在しない。ベストに達したら進歩は存在しなくなる。ベターなればこそ人はさらに努力するのである。

さらに付加するならばビジネス化を引っ張って行くのか、尻押しして行くのかの判断もコーディネータは求められる。やることは変わらなくても結果は違って来る筈である。前者は相手に依頼心を起こさせる可能性があり、後者は自立心が育って乳離れを起こすであろう。どちらが良いか悪いかの判断はコーディネータの資質に依存すると考える。このことは換言すれば時と場合と目的に応じて柔軟に使い分けが必要であることを示唆している。創業も事業形態も経営理念も異なるグループ員を平等に扱わないこと、それぞれの立場に配慮して公平に扱うことが前提である。平等は不公平を招き、公平は不平等となる。理屈で理解しても感情を無視することはかなり困難である。コーディネータの泣き所の課題でもある。難しいことだが説得する技術より納得させる技術が必要であろう。

(注) **時間軸**：科学も技術も人類発生以来の過去の実績の積み重ねの上にある。現代の我々は善悪を問わず、その科学・技術の影響下にあり、逃れることはまず不可能である。それにも関わらず政治・経済の抱える課題の基盤には有用・無用がそれぞれの論理によって利用されている。この時間軸は科学・技術のハードとソフトの無限と言えざる組み合わせにより、多岐にわたって社会活動のツールとして活用されている。それでは現在の科学・技術が人類の将来にどのように関わっていくのか、予測・検証を必要とするのではないか。過去・現在・未来の時間の進みに変化(発展・高度化・進歩等の使われ方が未知、科学・技術は両刃の剣である)する科学・技術のあり方と言ったことを忘れて良いものかどうか。

空間軸：現在の自分が居る場所を原点としてマクロには居住する市町村、取り巻く地域、国、自然、もっと広げて地球、太陽系、銀河系、宇宙空間が考えられ、ミクロには自分自身という個体があり、体を構成する臓器・器官、さらに細胞、細胞核、DNA、分子、原子、素粒子まで広がる。

社会軸：人は地球表面の生物圏(Biosphere)の陸地にコロニーを形成し、それぞれのコロニーが連携して国家を形作り、独自の政治・経済・文化・社会を持つに到っている。この国家も時間軸に従って栄枯盛衰を、空間軸で膨張・収縮、主義主張の変化をしている。社会軸を環境軸と言い換えると領域が広がる。 以上